

[特集]

知的財産戦略



1990年代前半までわが国の競争力は世界No.1と言われ、日本モデルが至るところでもはやされていた。現在はどうか。2004年IMD調査によれば、日本の競争力は世界60の国・地域の中で23位である。現在の地位に甘んじている要因はいくつかあろうが、日本政府は、2002年に知財立国宣言を行い、無形資産の創造に適したシステムへと転換するため法制面での整備を急速に進めている。

しかしながら、知的財産は特許権を始めとして、実用新案権、意匠権、著作権、商標権、そして営業ノウハウ等の企業秘密に至るまで内容が多岐にわたり、その全容が漠然としてしまっていることも事実である。

そこで、本号では、「知的財産」をどのように捉え、創造⇒保護⇒活用というサイクルをどのように回転させるかについて、「地域活性化と知的財産」、「中小企業の知的財産戦略」、「外部資産の活用（産学連携）」という3つの視点から考察した。

C O N T E N T S

- 知的財産の時代
妹尾堅一郎 ……P4～P7
- 中小企業の特許戦略
久保 浩三 ……P8～P11
- 産学連携のコーディネータ
井深 丹 ……P12～P15